

日本語教育学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本語教育学特論Ⅰ	年少者日本語教育	2	高橋 亜紀子	1	集中講義
日本語教育学総合演習Ⅰ	課題研究Ⅰ	2	小河原 義朗	1	水曜5限
日本語教育学総合演習Ⅱ	課題研究Ⅱ	2	小河原 義朗	2	水曜5限
日本語教育方法論研究演習Ⅰ	日本語教育実践研究	2	小河原 義朗	2	金曜3限
日本語教育方法論研究演習Ⅱ	日本語教育における論文 講読	2	島崎 薫	2	火曜5限
日本語教育学研究演習Ⅰ	日本語教育方法論	2	小河原 義朗	1	金曜3限
日本語教育学研究演習Ⅱ	日本語学習者と社会	2	島崎 薫	1	火曜3限
日本語教育学研究実習Ⅰ	日本語コース運営の基礎	2	島崎 薫	1	水曜3限 水曜4限
日本語教育学研究実習Ⅱ	日本語コースの運営と改善	2	島崎 薫	2	水曜3限 水曜4限
日本語教育学研究実習Ⅲ	海外インターンシップ	2	小河原 義朗	2	集中講義

科目名：日本語教育学特論Ⅰ

曜日・講時：集中講義

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM98813, 科目ナンバリング：LJS-LIN615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：年少者日本語教育

2・授業の目的と概要：日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、それに伴い学校に在籍する外国人児童生徒等も増加している。この授業では、学校教員を目指す学生を対象に、日本語指導が必要な児童生徒等に関する基礎的な知識を学び、教師として行うべき支援について考える。

3. 学習の到達目標：1. 外国につながる児童生徒等の教育の現状や課題について理解を深める。

2. 子どもの生活や学習上の困難点についての理解を深める。

3. 子どもに対する日本語指導についての基礎的な知識を身につけて、子どもを支援できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題（1）

3. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題（2）

4. 子どもの生活や学習上の困難点（1）

5. 子どもの生活や学習上の困難点（2）

6. 子どもへの日本語支援の方法（1）受け入れの準備

7. 子どもへの日本語支援の方法（2）サバイバル・日本語基礎

8. 子どもへの日本語支援の方法（3）日本語指導と教科の統合学習

9. 子どもへの日本語支援の方法（4）教科の補習

10. 子どもへの日本語支援体験（1）

11. 子どもへの日本語支援体験（2）

12. 子どもへの日本語支援体験（3）

13. 体験の振り返り

14. 教師の役割

15. まとめ

5. 成績評価方法：授業への参加態度 30%、授業の課題 40%、最終レポート 30%

6. 教科書および参考書：文部科学省（2019）『外国人児童生徒受入れの手引き（改訂版）』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

この授業では子どもの支援を実際に行うことを予定しています。しかし、事情によって実施できない場合には、シラバスの内容を変更することがあります。

科目名：日本語教育学総合演習Ⅰ

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗、島崎 薫

コード：LM13503, **科目ナンバリング：**LJS-LIN618J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究Ⅰ

2・授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

3. 学習の到達目標：参加者相互の研究発表を通じて、

- (1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。
- (2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。
- (3) 各自の研究を着実に進めることができる。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）
- 第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）
- 第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）
- 第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）
- 第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）
- 第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）
- 第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）
- 第9回：修士課程2年生による結果報告
- 第10回：修士課程2年生による分析報告
- 第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）
- 第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）
- 第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）
- 第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）
- 第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

6. 教科書および参考書：授業中に適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本語教育学総合演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗、島崎 薫

コード：LM23502, **科目ナンバリング：**LJS-LIN619J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究Ⅱ

2・授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

3. 学習の到達目標：参加者相互の研究発表を通じて、

- (1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。
- (2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。
- (3) 各自の研究を着実に進めることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）とディスカッション

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）とディスカッション

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）とディスカッション

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）とディスカッション

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第9回：修士課程2年生による結果報告とディスカッション

第10回：修士課程2年生による分析報告とディスカッション

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）とディスカッション

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）とディスカッション

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

6. 教科書および参考書：授業中に適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本語教育方法論研究演習 I

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LM25302, **科目ナンバリング：**LJS-LIN620J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語理解学習過程

2・授業の目的と概要： 人がことばを理解し学習するとはどういうことなのか、その様々な考え方や理論について理解を深める。その上で、聴解または読解の教材を分析し、教材案を作成し、模擬授業を実施して授業分析をすることによって、教育方法や学習方法の改善につなげる。

3. 学習の到達目標： (1) 言語の理解・学習過程についての理論的な背景を理解し、説明できる。
(2) 理論的な背景を踏まえて、教材を分析・作成し、実践に結び付けることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

第1回：イントロダクション

第2回：言語の学習とは

第3回：言語理解学習のメカニズム

第4回：言語の記憶・処理過程

第5回：言語の理解・産出過程

第6回：学習科学

第7回：教材分析（聴解）

第8回：教材作成（聴解）

第9回：模擬授業（聴解）

第10回：授業分析（聴解）

第11回：教材分析（読解）

第12回：教材作成（読解）

第13回：模擬授業（読解）

第14回：授業分析（読解）

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：レポート 50%、授業課題 50%

6. 教科書および参考書：授業中に適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LM22503, **科目ナンバリング：**LJS-LIN621J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育における論文講読

2・授業の目的と概要：受講者が興味関心のある領域の研究論文を持ち寄って批判的に検討し、研究論文の内容をまとめる力、批判的に検討する力を養う。また、先行研究を検討した上でどのように問いを立てるのか、先行研究を論文でどのようにまとめるのかについても学ぶ。

3. 学習の到達目標：①自分が興味関心のある領域の研究論文の要旨をまとめることができる
②自分が興味関心のある領域の研究論文を批判的に読むことができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション、問いを立てるとは①
- 2 問いを立てるとは②
- 3 先行研究をレビューするとは
- 4 先行研究の批判的検討①
- 5 先行研究の批判的検討②
- 6 先行研究の批判的検討③
- 7 先行研究の批判的検討④
- 8 先行研究の批判的検討⑤
- 9 先行研究の批判的検討⑥
- 10 先行研究の批判的検討⑦
- 11 先行研究の批判的検討⑧
- 12 先行研究の批判的検討⑨
- 13 研究倫理
- 14 先行研究の章の書き方
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：毎週の課題 100%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：日本語教育学研究演習Ⅰ

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LM15302, **科目ナンバリング：**LJS-LIN623J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育学研究方法論

2・授業の目的と概要：日本語教育学の研究を進めていくための方法論を学ぶ。自らの問題意識をより明確化するとともに、日本語教育学研究の全体像を踏まえた上で、自らの研究テーマを位置づけ、具体的に進めていくための方法論を検討する。

3. 学習の到達目標：(1) 自らの問題意識を明確化する。

(2) 自らの研究テーマについて何がどこまで明らかになっているのかを整理する。

(3) 研究の方法論を検討し、研究計画の見通しを立てる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 オリエンテーション

2 ティーチングポートフォリオ

3 日本語教育の参照枠

4 これからの教師の役割

5 日本語教育学を俯瞰する

6 日本語教育の諸分野

7 教育活動と改善

8 評価

9 学習者、教師

10 学習段階

11 日本語、コミュニケーション

12 学習と教育

13 制度・社会・歴史

14 言語使用

15 哲学・思想

5. 成績評価方法：レポート 50%、授業課題 50%

6. 教科書および参考書：授業中に適宜資料を配布する。

7. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本語教育学研究演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LM12304, **科目ナンバリング：**LJS-LIN624J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語学習者と社会

2・授業の目的と概要：日本語学習者と社会に関わる文献を読み、さまざまな論考に触れるとともに、批判的に検討することで学習者と社会に関する多角的な視点を獲得することを目指す。

3. 学習の到達目標：日本語学習者と社会に関わる文献を読み、さまざまな論考に触れ、

①これまで自分が持っていなかった視点や捉え方、考え方を獲得する

②批判的に講読する中で、批判的に読む力を育てる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション

2 講読①

3 講読②

4 講読③

5 講読④

6 講読⑤

7 講読⑥

8 講読⑦

9 講読⑧

10 講読⑨

11 講読⑩

12 講読⑪

13 講読⑫

14 講読⑬

15 まとめ

5. 成績評価方法：毎週の課題 50%

最終課題 50%

6. 教科書および参考書：初回の授業で指示します。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本語教育学研究実習Ⅰ

曜日・講時：水曜3限、水曜4限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LM13302, **科目ナンバリング：**LJS-LIN625J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コース運営の基礎

2・授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、それぞれの授業に必要な教材・教具を準備して授業を実施する力を養い、そしてその自身の実践を振り返って改善案を考えることができる力を養成することを目的とする。前期は、コースデザインの仕方について学び、後期に実施する東北大留学生向けのコースに関して、彼らのニーズ・レディネス、置かれている環境等を分析して実際にコースデザインをするとともに、そのコースの実際の授業の中でどのような教材・教具を使ってどのように

3. 学習の到達目標：・実習の目的・目標を理解し、日本語教師として求められる資質・能力と実習がどのように関わっているのかを理解する

- ・学習者のニーズ・レディネス、環境などを分析し、学習者に合ったコースをデザインすることができる
- ・コースの目的・目標に合わせて、授業をデザインし、必要な教材・教具を準備することができる
- ・模擬授業を通して、授業のデザインや教え方、教材・教具などについて振り返り、改善案を考えることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：コースデザインとは①
- 第3回：コースデザインとは②
- 第4回：模擬授業
- 第5回：コミュニケーション能力とは
- 第6回：学習者の日本語の習熟度とは
- 第7回：多様な授業内活動①
- 第8回：多様な授業内活動②
- 第9回：多様な授業内活動③
- 第10回：授業準備・模擬授業①
- 第11回：振り返り①、授業準備・模擬授業②
- 第12回：振り返り②、授業準備・模擬授業③
- 第13回：振り返り③、授業準備・模擬授業④
- 第14回：振り返り④、授業準備・模擬授業⑤
- 第15回：振り返り⑤まとめ

5. 成績評価方法：授業参加態度 30%

授業での課題 30%

最終レポート 40%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。授業外の時間に2回程度学内外の授業見学を実施する予定です。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

日本語教育学専修に所属する学生を優先します。

科目名：日本語教育学研究実習Ⅱ

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LM23302, **科目ナンバリング：**LJS-LIN626J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースの運営と改善

2・授業の目的と概要：この授業では、教壇実習に向けてのオリエンテーション、授業見学、授業準備、模擬授業を行い、教壇実習後は各実践の振り返りと、コース全体の振り返りを行う。教壇実習は、この授業外の時間で実施されている文学研究科日本語教育学研究室が運営している夜間日本語コースで行う。

3. 学習の到達目標：①コースの目的・目標に合わせた授業をデザインし、単独で教壇に立って授業を実施することができる
②他のチームメンバーと協働してコースを運営することができる
③自身の実践を多角的な観点で振り返り、分析することができる
④他のチームメンバーと一緒にコース全体を振り返り、省察することができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 オリエンテーション
- 2 授業準備とその検討①
- 3 授業準備とその検討②
- 4 模擬授業①、コースオリエンテーションの準備
- 5 模擬授業・振り返り①、授業見学
- 6 模擬授業・振り返り②、[夜間]教壇実習①
- 7 教壇実習振り返り①、模擬授業・振り返り③、[夜間]教壇実習②
- 8 教壇実習振り返り②、模擬授業・振り返り④、[夜間]教壇実習③
- 9 教壇実習振り返り③、模擬授業・振り返り⑤、[夜間]教壇実習④
- 10 教壇実習振り返り④、模擬授業・振り返り⑥、[夜間]教壇実習⑤
- 11 教壇実習振り返り⑤、模擬授業・振り返り⑦、[夜間]教壇実習⑥
- 12 教壇実習振り返り⑥、[夜間]教壇実習⑦
- 13 教壇実習振り返り⑦、授業分析①
- 14 実践研修全体総括
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：授業準備（教案、教材・教具など）20%

模擬授業 20%

教壇実習 20%

授業分析報告書 10%

実習報告書（個人の振り返りレポートを含む）30%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。教壇実習は、この授業外の時間で実施されている夜間日本語コースで実施されます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

前期に開講された「日本語教育学研究実習Ⅰ」を履修し、単位を取得していることがこの授業の履修条件です。

科目名：日本語教育学研究実習Ⅲ

曜日・講時：集中講義

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LM98818, **科目ナンバリング：**LJS-LIN614J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：海外インターンシップ

2・授業の目的と概要：日本語教員養成課程を通して得た知識とスキルを踏まえて、長期休業中に約 2 週間海外の日本語教育現場に行き、どのような学習者がどのような学習環境で日本語を学習しているのかを知り、どのような日本語教育が行われているのかを見学し、さらに現地日本語コースの教員の指導のもとで日本語を実際に教えることを体験する。同時に現地における異文化や異文化コミュニケーションを体験する。なお、本年度は 2、3 月中に実施する予定である。

- 3. 学習の到達目標：**
1. 海外の日本語教育と学習者の多様性を知る
 2. 海外の日本語教育の現場を見て学ぶ
 3. 海外の日本語教育の現場で実際に教える体験をする

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

スケジュール（予定）

事前活動①：オリエンテーション

事前活動②：現地教員との打ち合わせと準備

事前活動③：現地とのオンライン日本語クラス参加

事前活動④：進捗状況報告と最終打ち合わせ

海外インターンシップの実施（約 2 週間）

事後活動①：振り返り、報告書の作成

事後活動②：報告会の開催

日程の詳細は、インターンシップの日程が決まり次第、履修学生と調整する。

5. 成績評価方法：事前課題 50%、事後報告書 50%

6. 教科書および参考書：授業内で指示する。

7. 授業時間外学習：基本的に海外インターンは授業時間外に行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

- ・学部の日本語教育学実習を履修済であること。
- ・海外インターン先の事情により、開講されないことがある。
- ・履修人数に制限があるため、履修希望者は、学期前に担当教員に連絡し相談すること。